

キリンググループ 2018年12月期 第3四半期決算

2018年11月6日
キリンホールディングス株式会社

業績サマリー

- 9月累月の連結売上収益は、前年比+4.8%。
- 連結事業利益は前年比△1.1%となるも為替影響を除くとほぼ前年並み。
- 親会社の所有者に帰属する四半期利益は、昨年計上したブラジル麒麟売却によるプラス影響の反動により大幅減。

3Qトピックス

- 新ジャンル基幹ブランドの好調やコスト削減により麒麟ビール大幅増益。2016年中計の最優先課題「麒麟ビールの再成長」に成果。
- ライオン飲料事業の株式譲渡検討を開始。
- 今年2月以降に開始した約1,000億円の自己株式取得を9月に完了。

(億円)	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年増減	
売上収益	14,207	13,553	654	4.8%
事業利益 ※1	1,472	1,490	△ 17	△ 1.1%
税引前四半期利益	1,987	1,907	79	4.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,289	2,172	△ 882	△ 40.6%

キリン・アムジェン社
株式売却益等を含む

前年はブラジル事業の
売却益などを含む

※1 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出

■ 定量目標

	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年増減	
平準化 E P S (円) ※2	122円	125円	△ 3円	△ 2.4%

※2 明細はp.11参照

■ 財務指標

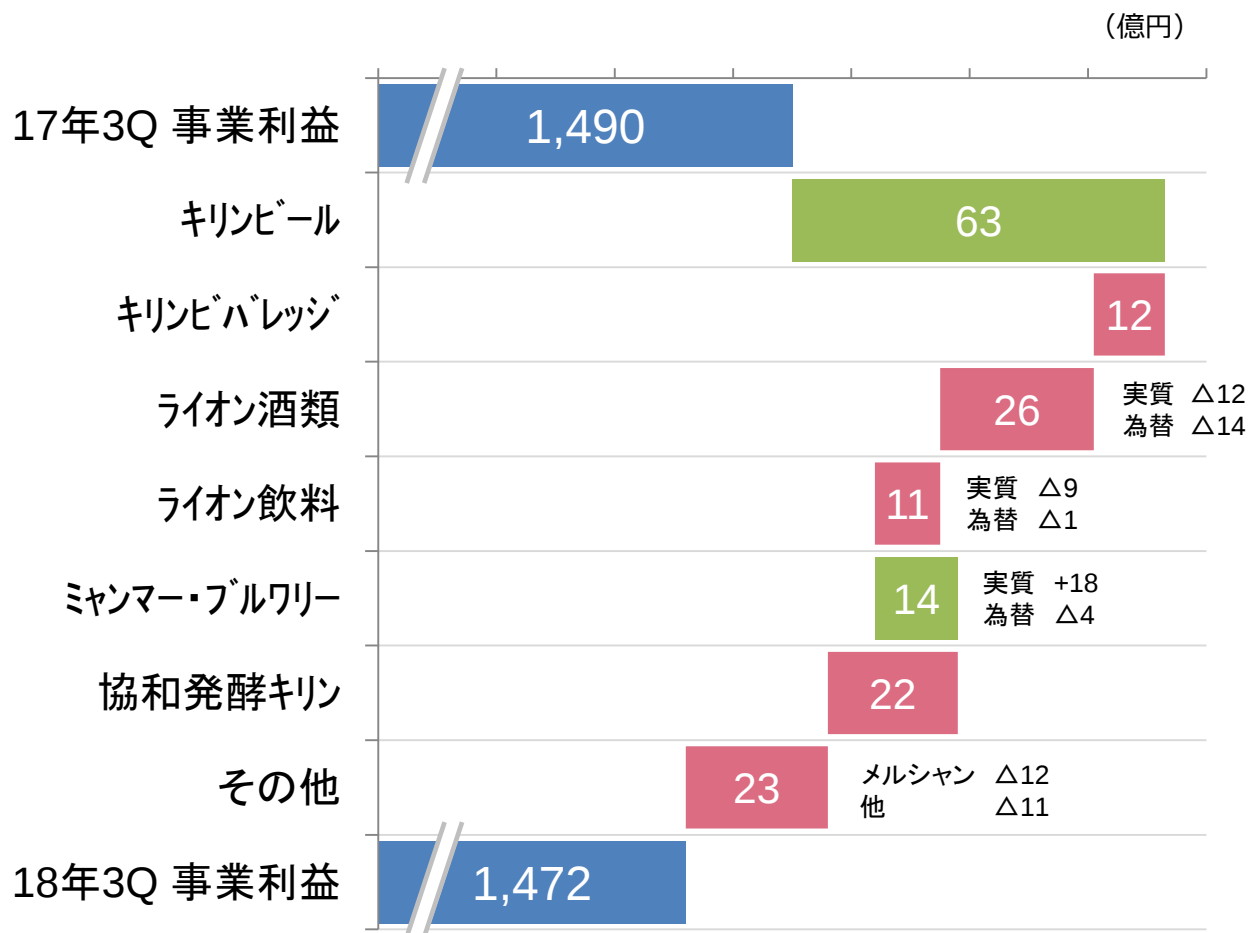
	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年増減	
E P S (円)	143.25円	237.98円	△94.73円	△39.8%

- ▶ 日本総合飲料事業、海外総合飲料事業の増収により売上収益は前年比+4.8%で着地。
- ▶ 事業利益は海外総合飲料・医薬バイオケミカル事業が前年減となるも、日本総合飲料事業の好調が下支えとなり、前年比△1.1%で着地。

(億円)	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年 増減	
				%
売上収益	14,207	13,553	654	4.8%
日本総合飲料	7,959	7,786	173	2.2%
海外総合飲料	3,640	3,068	572	18.6%
医薬・バイオケミカル	2,489	2,566	△ 77	△ 3.0%
その他	119	133	△ 13	△ 9.9%
事業利益	1,472	1,490	△ 17	△ 1.1%
日本総合飲料	624	591	34	5.7%
海外総合飲料	426	456	△ 30	△ 6.5%
医薬・バイオケミカル	456	478	△ 22	△ 4.6%
その他	3	9	△ 6	△ 67.8%
全社費用・消去	△ 37	△ 44	7	-

3Q連結事業利益 事業会社別増減（対前年）

KIRIN



増減要因

キリンビール

- ▶ 新ジャンル、RTDの販売数量増による限界利益増、および販売促進費の削減などによるコスト減。

キリンビバレッジ

- ▶ 缶容器構成比減、大型PET構成比増による限界利益減。

ライオン酒類

- ▶ NSW州での容器保証金制度導入等によるビール数量減、為替影響などが利益を圧迫。

ライオン飲料

- ▶ 果汁飲料カテゴリーの数量減、その他外部環境の変化の影響。

ミャンマー・ブルワリー

- ▶ 引き続き販売数量は大幅に増加。為替要因を十分カバー。

協和発酵キリン

- ▶ 薬価改定や後発品浸透の影響により国内医薬品の利益が減少。

その他

- ▶ メルシャンは原材料費、物流費の高騰。
- ▶ 他、ライオン本社、国内外その他事業が減少。

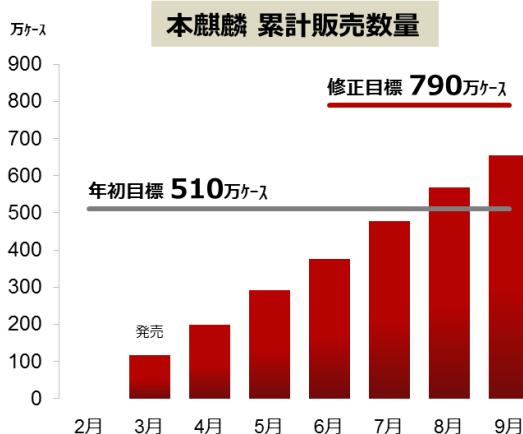
キリンビール

新ジャンル好調によりビール類の販売数量 前年比+4.7%。

- 市場がマイナスとなる中、新ジャンルカテゴリーの「本麒麟」の販売が好調。
- 「一番搾り」、「のどごし<生>」への注力と共に、絞りの効いたマーケティングにより更なる成長を目指す。

本麒麟

- 3月に発売した「本麒麟」の販売が引き続き好調。
- 発売から5か月の累計出荷実績比較では、過去10年のキリンビール新商品で売上No.1となった。
- 引き続き、6月に上方修正した通期目標達成に向け取り組んでいく。



一番搾り

- 昨年のリニューアル以降「一番搾り」缶の販売数量は、8月まで13ヶ月連続で前年増と、好調に推移。



3Q前年比

一番搾り計 缶

+9%

一番搾りブランド計缶
+1%

のどごし

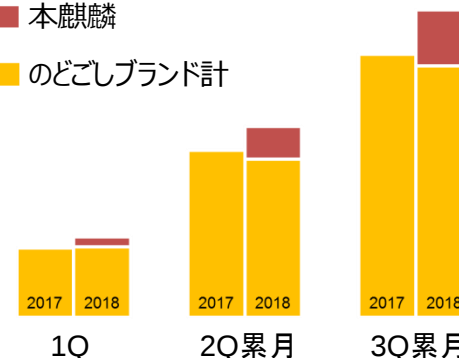
- 「のどごし」ブランドは圧倒的な販売数量を維持。



新ジャンル主カブランドの販売数量推移

■ 本麒麟

■ のどごしブランド計



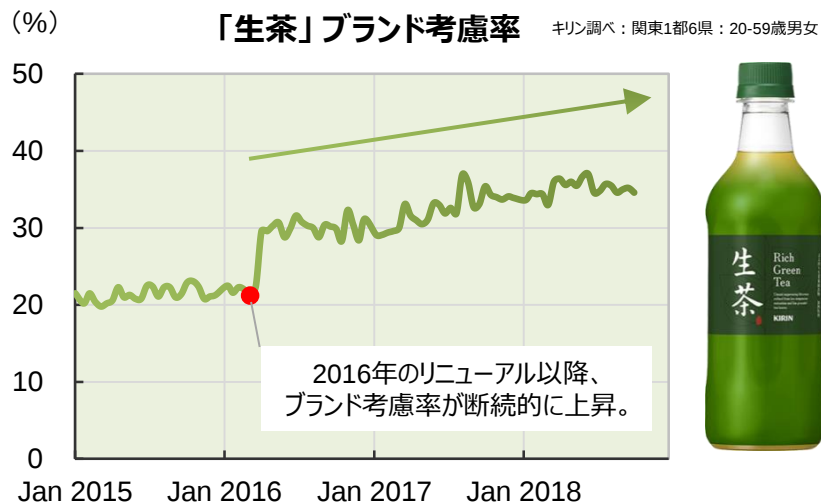
麒麟ビバレッジ

数量増加も、ミックス悪化により事業利益は前年減。

- ▶ 缶容器構成比減、大型PET容器構成比増によりミックスが悪化。
- ▶ 7月の豪雨による物流の寸断等により一部商品の出荷停止、出荷調整が発生。

ブランド力の強化

- ▶ 生茶は過去10年で最大の年間販売数量達成見込み。
- ▶ ブランド考慮率も断続的に上昇。



ライオン酒類

クラフトなどの注カブランドの育成が進捗。

- ▶ 2つのクラフトブルワリー Fourpure (英国)、Harrington's (NZ) の買収が完了。
- ▶ 注カブランドである「Iron Jack」、「Furphy」はそれぞれ前年比を大きく上回り着地。
- ▶ 一方、NSW州の容器保証金制度導入などによる市場停滞が響き、売上・利益ともに対前年でマイナス。



+240% +106%

ミャンマー・ブルワリー

好調維持。キャンペーン効果により対前年大幅増。

- ▶ 主力のミャンマービール強化の取り組みが奏功し好調を維持。
- ▶ 原材料費の高騰、為替影響などの環境変化を見据え、コスト削減の取り組みを継続。



協和発酵キリン

減収減益ではあるが、想定線。持分法投資損益が改善。

- 薬価改定や後発品浸透の影響により、引き続き国内医薬品の売上・利益は減少。
- バイオシミラー事業が進捗し、年内の持分法投資損益改善の見通しが立ったことから、コア営業利益※を上方修正。

※コア営業利益 = 協和発酵キリン社が指標とする段階利益。
キリンホールディングスの事業利益とは異なり、持分法投資損益を取り込む。

パイプライン

KW-0761
(モガムリズマブ)

- 米国で承認。10月より販売開始。
- 欧州で承認勧告を受領。

FKB327
(アダリムマブ) ※バイオシミラー

- 欧州での販売承認を取得。
- 年内にマイラン社への初期出荷を開始。

**「ネスプ®」の
オーソライズドジェネリック※※**

- 日本で承認。
- 2019年3Qから上市予定。

※※ダルベポエチン アルファ注シリンジ「KKF」

※キリンホールディングスの連結事業利益には持分法投資損益を含まないため、
コア営業利益の上方修正に伴う通期事業利益の予想修正はない。

キリンビール

フレッシュホップフェスト2018を開催

- ▶ スプリングバレーブルワリーを含む日本全国のクラフトブルワリー52社、1,000店舗以上の飲食店、ホップ生産者、日本ビアジャーナリスト協会が共同で主催。
- ▶ 今後も地域の活性化を支援していくため、生産者や地域とのパートナーシップを強化していく。



フレッシュホップを使った
「一番搾り とれたてホップ」
10月23日発売

タップ・マルシェの展開拡大

- ▶ 2018年の「タップ・マルシェ」設置店舗数は9月末で累計5,000店を突破。
- ▶ 従来の4タップ機に加え、更に省スペースとなった2タップ機を投入。引き続き市場拡大を目指す。



キリンビバレッジ

小型容器への注力を継続

- ▶ 基盤ブランドを中心に、冬季向け商品の販売を強化。
- ▶ 小型PETの構成比UPにより、ミックス改善へ。



ライオン

飲料事業の株式譲渡を検討開始。

- ▶ 戦略的選択肢の検討の結果、飲料事業の今後の成長や、株主価値とライオン事業価値の最大化に向け、同事業の第三者譲渡が最適な方向性と判断。
- ▶ ライオンは、今後クラフトビール、プレミアム飲料といった成長領域への投資拡大を進める。

これまでの経緯

2018年9月11日

- ▶ ライオン飲料事業の戦略的選択肢検討を発表。

2018年10月10日

- ▶ 検討の結果、同事業の株式を譲渡する方向性を発表。

資料編

平準化EPS

(億円)		2018年 3Q実績	2017年 3Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	1,289	2,172
非継続事業からの四半期利益	②	-	818
税金等調整後その他営業収益／費用	③	△ 192	△ 214
平準化 四半期利益	④ = (① - ②) + ③	1,098	1,140
期中平均株式数 (千株)	⑤	900,008	912,570
平準化 E P S (円)	④ ÷ ⑤	122	125

(億円)	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年 増減	
				%
日本総合飲料 売上収益	7,959	7,786	173	2.2%
麒麟ビール	4,921	4,794	127	2.6%
麒麟ビバレッジ	2,150	2,165	△ 15	△ 0.7%
メルシャン	443	448	△ 5	△ 1.1%
その他・内部取引消去	445	378	67	17.6%
日本総合飲料 事業利益	624	591	34	5.7%
麒麟ビール	586	523	63	12.0%
麒麟ビバレッジ	207	219	△ 12	△ 5.6%
メルシャン	11	23	△ 12	△ 52.9%
その他	△ 179	△ 174	△ 5	-
海外総合飲料 売上収益	3,640	3,068	572	18.6%
ライオン	2,377	2,493	△ 116	△ 4.6%
ミャンマー・ブルフリー	198	181	17	9.2%
その他・内部取引消去	1,065	394	671	170.0%
海外総合飲料 事業利益	426	456	△ 30	△ 6.5%
ライオン	317	359	△ 42	△ 11.8%
ミャンマー・ブルフリー	82	68	14	20.7%
その他	27	28	△ 1	△ 5.1%

カテゴリー別	販売数量 前年比増減
ビール類計	5%
ビール	△6%
発泡酒	△7%
新ジャンル	27%
RTD	12%

ブランド別	販売数量 前年比増減
一番搾り計	△5%
淡麗計	△7%
のどごし計	△4%
氷結計	△1%
本搾り計	12%

(億円)	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年増減	
売上収益	4,921	4,794	127	2.6%
酒税売上収益	2,878	2,769	108	3.9%
事業利益	586	523	63	12.0%

ビール市場

- 3Qのビール類市場は前年比△2.6%と推定。
- 気温の上昇はプラスに影響したが、市場の継続的な縮小に加え、昨年6月の酒税法等改正、リターナブル容器商品価格改定等が要因となりマイナス。

当社の状況

販売数量

- 市場がマイナスとなるなか、3月に発売した新ジャンル「本麒麟」が牽引し、ビール類計は+5%。
- RTDは、「本搾り」の大幅増に加え、4月に発売した「キリン・ザ・ストロング」の販売が好調に推移し、全体で+12%。

業績補足

- ビール類、RTDの販売数量増により、限界利益が増加。
- キャンペーン削減等により販売促進費が減少。

2017年度3Q 事業利益		523	主な内容
対前年 増減 (億円)	酒類等限界利益増	31	ビール類計 20億 (ビール減 △26千kl、発泡酒減 △25千kl、新ジャンル増 107千kl) ビール類以外計 16億 (RTD増 27千kl、ノンアル減 △2千kl) 品種構成差異等 △6億
	原材料費減	6	
	販売費減	38	販売促進費減 54億、広告費増 △16億 (計518億→480億)
	その他費用増	△ 12	消耗品費増、電力・燃料費増 他
	計	63	
2018年度3Q 事業利益		586	

販売数量（万ケース）		2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	対前年 増減
カテゴリー別	紅茶	3,707	3,823	△ 3.0%
	日本茶	2,643	2,378	11.2%
	コーヒー飲料	1,896	2,186	△ 13.3%
	果実・野菜飲料	1,982	1,916	3.4%
	炭酸飲料	1,682	1,699	△ 1.0%
	健康・スポーツ飲料	1,015	831	22.1%
	水	3,350	3,086	8.5%
	その他	1,460	1,399	4.3%
容器別	缶	2,601	2,863	△ 9.2%
	大型PET	6,117	5,852	4.5%
	小型PET	7,312	6,985	4.7%
	その他	1,705	1,618	5.3%
計		17,735	17,318	2.4%

売上収益（億円）	2,150	2,165	△ 15	△ 0.7%
事業利益（億円）	207	219	△ 12	△ 5.6%

2017年度3Q 事業利益		219	主な内容
対前年 増減 （億円）	清涼飲料限界利益減	△ 24	販売数量増 417万ケース 21億 商品・容器構成差異等 △45億
	原材料費等減	6	原料費減 4億、材料費増 △4億、加工費減 7億
	販売費減	9	販売促進費減 4億、広告費減 5億（計263億→254億）
	その他費用増	△ 3	自販機償却費増 他
	計	△ 12	
2018年度3Q 事業利益		207	

清涼飲料市場

➤ 対前年+2%と推定。

当社の状況

販売数量

- 清涼飲料計+2.4%で着地。
- ブランド毎に計画進捗に差が発生。
- 好調に推移しているのは生茶、キリンレモン。また、猛暑の影響により水やスポーツ飲料も堅調。
- ファイアは10月のリニューアルによりテコ入れを図る。

業績補足

- 商品・容器構成差異等は悪化するも3Q単（7～9月）では増益を達成。

	円ベース(億円)			
	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	増減額	増減%
売上収益	2,377	2,493	△ 116	△ 4.6%
酒類	1,296	1,365	△ 70	△ 5.1%
飲料	1,082	1,128	△ 46	△ 4.1%
事業利益	317	359	△ 42	△ 11.8%
酒類	345	371	△ 26	△ 7.1%
飲料	24	35	△ 11	△ 30.4%
本社	△ 52	△ 47	△ 6	-

	豪ドルベース(百万豪ドル)			
	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	増減額	増減%
売上収益	2,876	2,897	△ 21	△ 0.7%
酒類	1,567	1,586	△ 20	△ 1.2%
飲料	1,309	1,310	△ 2	△ 0.1%
事業利益	383	417	△ 34	△ 8.1%
酒類	417	431	△ 14	△ 3.2%
飲料	30	40	△ 11	△ 27.0%
本社	△ 63	△ 54	△ 9	-

	酒類	飲料
販売数量増減	△1.3%	△3.3%

事業利益 増減 (百万豪ドル)	2017年3Q	431	40
	販売数量 増減	△ 16	△ 14
	その他	2	3
	2018年3Q	417	30

業績補足

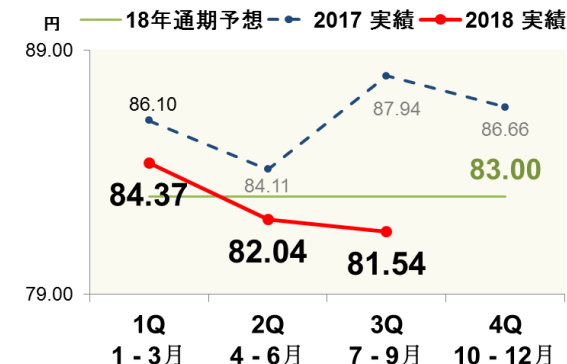
ライオン酒類

- ▶ 豪州ビール市場の減少傾向に加え、NSW州の容器保証金制度の影響で、売上はやや減少したが、ブランド強化を進めるIron Jack、Furphyなどの販売数量は大変好調。
- ▶ 事業利益は容器保証金制度の影響等に加え、ニュージーランドにおけるERPシステム導入に伴う一時的な費用増等により減少。

ライオン飲料

- ▶ 高収益カテゴリーであるMilk Based Beverageやヨーグルトの販売数量は引き続き増加。一方、果汁飲料の数量減に加え、容器保証金制度、エネルギーコストの上昇、大規模な干ばつの発生による計画外のコスト増もあり、大幅減益となる。

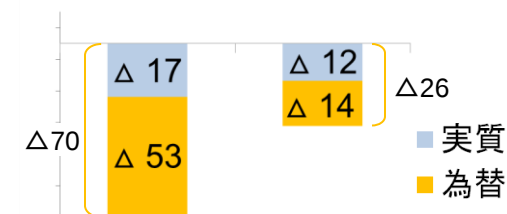
AUD (オーストラリア・ドル) *3か月平均



ライオン社は、IFRS会計上3か月毎の平均レートを積上げる。

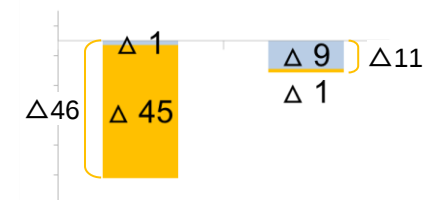
連結為替影響 ライオン酒類 (億円)

売上収益 事業利益



連結為替影響 ライオン飲料 (億円)

売上収益 事業利益



	円ベース(億円)			
	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	増減額	増減%
売上収益	198	181	17	9.2%
事業利益	82	68	14	20.7%

チャットベース(Billionチャット)			
2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	増減額	増減%
252	220	32	14.4%
105	83	22	26.5%

ビール市場

➤ 引き続き一桁後半%のペースで拡大。

当社の状況

(%)	対前年
ビール	+16.0%

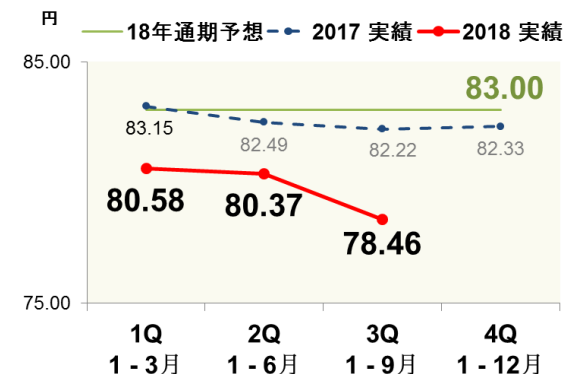
販売数量

- 2Qまでの増加トレンドに加えて、強化してきた主力のミャンマービールが好調に推移。
- キャンペーン実施時期の違いなどにより、この増加トレンドは通期では若干落ち着いて着地する見込み。

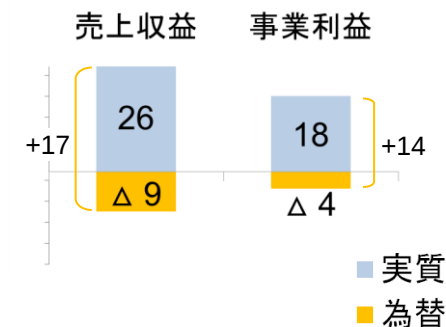
業績補足

- ミャンマービールは計画を達成したものの、引き続きエコノミーカテゴリーが大幅に伸長しておりアンダマンゴールドは対計画で大きくプラス着地。
- ミックスは悪化するも、数量増による限界利益増がカバー。
- 数量増に加えて、販売費投入時期の差によって大幅増益。

1,000 MMK (ミャンマー・チャット) * 累月平均



連結為替影響
ミャンマー・ブルフリー (億円)



(億円)	2018年 3Q実績	2017年 3Q実績	増減額	増減%
売上収益	2,489	2,566	△ 77	△ 3.0%
協和発酵キリン	2,545	2,618	△ 74	△ 2.8%
医薬	1,969	2,023	△ 54	△ 2.7%
バイオケミカル	575	595	△ 20	△ 3.4%
その他・内部取引消去	△ 55	△ 52	△ 3	-
事業利益	456	478	△ 22	△ 4.6%
協和発酵キリン	456	478	△ 22	△ 4.6%
医薬	392	424	△ 31	△ 7.4%
バイオケミカル	60	52	8	16.4%
その他	4	3	1	36.1%

当社の状況

売上収益

- ▶ 医薬事業は、グローバル戦略品の浸透が進む等して海外医薬品の売上が増加。
- ▶ 4月からの薬価改定等による国内医薬品の売上減少を補う一方、協和メデックスの連結除外により、医薬事業全体では減収。
- ▶ バイオケミカル事業は、前年の植物成長調整剤事業譲渡の影響等で、減収。

事業利益

- ▶ 医薬事業は、売上収益の減少に加え、海外での新製品発売準備に伴う販管費が増加し、減益。
- ▶ バイオケミカル事業は、海外工場への生産シフトによるコスト削減や、製品ミックスの改善が進み、増益。

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.